

【畜産】の【高温】対策について

<6～8月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【酪農】

(1) 予想される被害状況

- ・乳牛の採食量低下
- ・乳牛の乳量低下
- ・乳牛の乳質の低下

(2) 事前対策

- ・牛舎改善（風とおしの確保、直射日光の遮断、牛舎屋根散水）
- ・飼養密度の最適化（密飼いしない）
- ・新鮮な飲水の確保（水圧の確保、水槽の清掃）
- ・牛舎ファンの活用（牛体に適切に風を当てる）
- ・牛体の毛刈り、汚れ落とし（熱放散の促進）
- ・ヒートストレスメーター（THI）の数値チェック、早期の暑熱対策実施
- ・畜舎カーテン等整備による雨の侵入防止

(3) 事後対策

- ・涼しい時間帯での飼料給与（早朝や夜間での給与）
- ・飼料の多回数給与（6～8回程度）
- ・油脂の利用（乾物摂取量低下によるエネルギー不足改善）
- ・重曹や酸化マグネシウムなどの緩衝材利用（ルーメンpH調整）
- ・ミネラル・ビタミンの充足（ナトリウム、カリウム等給与）

【肉用牛】

(1) 予想される被害

- ・暑熱ストレスによる採食量の低下
- ・育成子牛や肥育牛における増体の遅延
- ・繁殖牛における受胎率の低下

(2) 事前対策

- ・新鮮な水を確保するため、水圧のチェックを実施しておき、こまめに水槽の清掃を実施する。
- ・換気扇や細霧装置がしっかり稼働するか試運転を行い、畜舎内の整理整頓や送風機を活用し風通りを確保する。
- ・餌槽の清掃を実施し、腐敗した給与飼料は必ず取り除く。
- ・畜舎屋根への石灰塗布を実施し、畜舎内の温度上昇を防ぐ。

(3) 事後対策

- ・飼料の多回給与（複数回にわけてこまめに給与）を行う。
- ・換気扇や細霧装置を稼働し、牛体を冷やす
- ・ルーメン内のpHを調整するために、重曹や酸化マグネシウムなどの緩衝材を利用する。

- ・肥育牛に対しては消化酵素剤を投与し、消化吸収を補助する。
- ・必要に応じ、ビタミンやミネラル（ナトリウム、カリウム等）を給与し、栄養不足を補う。
- ・屋根散水等を実施し、畜舎内の温度上昇を防ぐ。

【養豚・養鶏】

（１）予想される被害

- ・母豚の受胎率の低下
- ・豚及び鶏の採食量の低下による発育低下と出荷遅延
- ・ブロイラーの斃死率の上昇
- ・採卵鶏の産卵率の低下

（２）事前対策

- ・換気扇、送風機、細霧装置等を活用し、畜舎内の風通りの確保や温度上昇を防ぐ。
- ・屋根への石灰塗布や、寒冷紗の設置等により日陰を作ること、畜舎内の温度上昇を防ぐ。
- ・飼養密度を落とす
- ・新鮮な水を確保するため、水圧や水質、水量の点検を行い、給水器の清掃を実施する。
- ・給餌ライン及び給餌機を点検清掃し、飼料の腐敗とカビ発生を防止する。

（３）事後対策

- ・飼料の多回給与を行う。特に採食量の多い分娩ストールの母豚に対してはこまめに頻回給与する。
- ・必要に応じ、ビタミンやミネラルを給与し、栄養不足を補う。
- ・哺乳期の子豚においては、嗜好性の高い人工乳を給与する。
- ・鶏においては、飼料摂取量の改善のためにウェット飼料（練り餌）を給与する。
- ・屋根散水等を実施し、畜舎内の温度上昇を防ぐ。